

The social welfare in OSAKA



大阪の 社会福祉

2024年12月

835



社会福祉法 大阪市社会福祉協議会

<https://www.osaka-sishakyo.jp>



福祉の魅力を若手職員から発信



6・7面

福祉のおしごとと魅力発見ミーティング

▲児童養護施設、保育施設、特別養護老人ホーム、救護施設、障がい児・者施設で勤務する若手職員がお話しました

せているが。

(石)

HB

大谷翔平の放った50号のホームランボール1個に、数億円の

値段が付いたらしい▼貧困や格差が大きな社会問題になっている日本に比べ、アメリカ社会の何とのどかなことか。世界各地で戦争も起こっているというのに▼ワールドシリーズの入場料も、バックネット裏では3百万円以上だとか。たった2〜3時間のスポーツ観戦に3百万円も払う人が山ほどいて、即時完売▼そもそもドジャースやヤンキースというチームは金持ちで、大谷や山本の契約金を見ても破格である。そんな金持ち球団が、金にあかせて集めた選手たちの活躍で勝利を得るプロスポーツとはいったい何なのだろう▼考えれば、日本でも巨人やソフトバンクが強いの、選手に出せるお金の差以外の何物でもないだろう。大谷のように、日本人がアメリカ社会でヒーローになるのはうれしいことだが、何か違うような気がする▼「野球しようぜ」とグループを全国の小学校に贈ったり、世界を知るべきだと若者のロスアンジェルスへの留学資金を出したり、格好良すぎるのも個人的に釈然としない▼裏金でないからいいかと自分を納得させているが。

令和6年度 大阪市社会福祉大会開催

新たな課題の
解決に向けて

市社協は、10月18日に大阪国際交流センターホールで、令和6年度大阪市社会福祉大会を開催しました。当日は、約750人の参加があり、地域福祉の推進に永年尽力され、功績が顕著な社協役員及び民生委員・児童委員、社会福祉施設役員などの方々に表彰状・感謝状を贈呈

する式典と講演会をおこないました。

まず、第1部の式典では、市社協の永岡正己^{まさみ}会長から、社会福祉の発展のためにご尽力いただいた方々に、永年にわたる活動とご功績に対して深く敬意を表し、お祝いを述べた後、「本会では、地域福祉を推進する中核的な団体としての役割を果たすため、各区社会福祉協議会をはじめ、関係機関・団体等との連携を一層強め、『一人ひとりの人権が尊重され、誰もが自分らしく安心して暮らすことができる、やさしさとぬくもりのある福祉によるまちづくり』の実現に向けて、地域福祉の多面的な取り組みを全力で進めてまいります」と開会あいさつをおこないました。



▲大阪市社会福祉大会を開催

また、市社協会長表彰として、77人6団体に、市長表彰として、413人39団体に表彰状・感謝状が贈呈されました。式典の最後に、市



▲永岡会長から市社協会長表彰状を贈呈

と感じられるような関係性のある場のことを言います。現在、こどもも大人も居場所が減少するなか、こども食堂は、世代や年齢等に関係なく、さまざまな人が集う地域の居場所・つながりづくりの場そのものになってきています。遊び場全体の減少や少子高齢化などが



▲参加者の心を掴み、楽しく学びました

社協の前田葉子^{あきこ}副会長が、大会宣言(案)を朗読し、参加者の賛辞を得て、大会宣言は原案どおり採択され、より一層の地域福祉推進に向けて決意を新たにしました。



▲永岡会長からあいさつ

横にも縦にも
地域でつながる

第2部では、認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長の湯浅誠^{あつし}さんを招き、「こども食堂と私たちの地域・社会」をテーマとした講演会をおこないました。「こども食堂」は、こどもを中心に置いた多世代交流の地域の居場所として、令和5年時点で全国に9132箇所(前年比1700箇所増)あり、企業や社会福祉施設等で交流の機会として、「こども食堂」の運営を始めるところが増えているとのことです。湯浅さんは、「居場所とは、誰かにちゃんと見てもらえている、受け止められている、尊重されている、つながっている」と感じられるような関係性のある場のことを言います。現在、こどもも大人も居場所が減少するなか、こども食堂は、世代や年齢等に関係なく、さまざまな人が集う地域の居場所・つながりづくりの場そのものになってきています。遊び場全体の減少や少子高齢化などが

ら生きづらさが蔓延しているという課題もあるため、交流を通して孤立・孤独が深刻にならないよう、予防していくことが大切です」と話しました。続けて湯浅さんは、「災害時に、急に近所の人と助け合おうと思ってもなかなか難しいものです。普段からのつながりは災害時に生き、災害時の気づきをきっかけに新たにできたつながりが、また次の非常事態に生きてきます」と伝えました。最後に、「居場所づくりは、今いる人たちを『横につなげる』だけではなく、地域の未来を担う次世代の人につなぐ、『縦につなげる』ためにも大切な取り組みです」と締めくくりました。

フィールドワークで

改めて地域を知る

都島区



地域住民や専門職が、地域を知るために、実際に地域を歩いて回り、そこでの気づきや発見を共有する「フィールドワーク」という手法があります。都島区社協では今年度、区内9地域ごとに、地域活動者や地域福祉コーディネーター（区独自事業として各地域に配置）、地域包括支援センター、ランチ等の関係者と区社協職員が、一緒に地域を歩き、感じたことの共有やふりかえりをおこない、今後の地域福祉活動を考える機会をつくっています。

本記事では、11月5日に都島区高倉地域で実施した「フィールドワーク」の様子を紹介します。

実際に歩き、 地域を知る

11月5日の午後、高倉地域のみゆきコミュニティホールに、地域社協の会長や地域福祉コーディネーター、老人クラブの方々、地域包括支援センター、ランチ、区社協の職員らが集まりました。事前に、区社協職員と当日地域を案内する方々で、地域を見る視点や、地域の

特徴、暮らしている方の現状など、共有するポイントについての打合せを重ね、当日を迎えました。

フィールドワークは2グループに分かれて実施され、「この市営住宅では、最近全館にエレベーターがついた」「元々市場があったが、住宅街になった」「スーパーは西側に集中している。この辺りの方は、購入する物によって行くスーパーを

分けている」「駄菓子屋がほとんどなくなったが、お菓子が買えるところがあり、子どもたちが集まっているのを見かける」など、地域の方から実情をうかがいながら、回りました。

変化する地域を捉え、 次につなげる

同地域社協会長の三屋順一さんは、「高倉地域は皆さんから出ていた意見でもあるように、



▲地域の方から地域に関する情報を説明

地域マップを見ながら
ふりかえる様子



▲高倉地域社協の三屋会長

歓楽街はなく、静かで安全であり、高齢者や子どもにとっても住みやすい地域だと思っています。小中学校の生徒数も多く、子育てがしやすい地域でもあります。また、大きくなって高倉地域を離れる人が少なく、結婚しても住み続けてくれることも魅力の一つです。今日の内容を集まった方々以外にも共有し、これからの高倉地域について、話し合っていきたい」と語りました。

ふりかえりて出た意見

- ・新しい家、マンション、スポーツジム等が増え、駄菓子屋はなくなり、店も変わっているのだと改めて感じた
- ・スーパーが多くあるように思っていたが、一部エリアに固まっており、遠い方はどうしているのだろうと思った
- ・地域の皆さんから聞きながら回ったことで、知ることができた社会資源があって、実施できてよかった
- ・フィールドワークでアセスメントをおこない、高倉地域の魅力を再発見することができた
- ・いつも自転車のため、初めて高倉地域を歩いたが、地域住民と一緒に回ったことで、歴史や風情を知れる機会となった。歩いたことで気づいたところもあるので、業務に活かしていきたい

今回の取組みをふりかえって、区社協の小阪青空第一層生活支援コーディネーターは「地域住民や専門職と一緒に地域を歩き、地域の強みや魅力をさまざまな視点から見つけ出すことに重点を置いて実施しています。専門職だけでなく、地域住民とともに取り組むことで、そこで暮らす住民ならではの情報を共有することができそうです。今後は、実施したことで見えてきた課題やできる取組みを地域住民とともにすすめていきたいです」と話しました。

フィールドワークのポイント

- 話をしながら実際に歩いて回ること、地域の雰囲気や、そこに暮らす住民の生活の様子を感じ取ることができる
- 地域の今だけでなく、どのような経過があって現在に至るのか、歴史や変化を知ることができる
- 地域で暮らす住民だからこそ知り得る情報と、専門職ならではの視点をお互いに伝え合う機会となる
- 意見交換の場も含めて、地域の強み、社会資源、解決すべき課題、今後に向けての思いを共有することができる

「あったらいいな」を話し合おう



中央区社協では、生活支援体制整備事業の一環として、「あったらいいなを考える会」と題した第2層協議体会議（中央区北部地域包括支援センター圏域）を開催したところ、「このような場を地域で開催できれば」との声があり、令和4年度以降、地域単位での開催にも取り組んでいます。

よい点・問題点・試したいことを共有

区の北東部に位置する玉造地域は、近年大型マンションが増え、若い世代を中心に新たに地域に転入する人が増えています。中央区社協は、同地域で、令和4年11月に第1回、令和5年7月に第2回の「あったらいいなを考える会」を開催し、「玉造地域にお住まいの方」を対象として、主に地域団体の役員や民生委員・児童委員、地域福祉コーディネーター、食事サービスやふれあい喫茶の活動者らが集まり、話し合ってきました。

9月30日に開催された第3回の会では、これまでの検討もふまえ、新たに小学校のPTA役員に声をかけたほか、地域役員・活動者に限らない地域住民の方も交えて、計22人が参加しました。全員で自己紹介をした



▲「あったらいいな」をテーマに話し合い

後に、グループに分かれて話し合いました。

グループワークは、「KPPTA法」と呼ばれる手法を取り入れ、まずは①Keep（よかったこと、続けたいこと）と②Problem（問題点、改善したいこと）をあげました。そこから③Try（試したいこと）について、3つのポイント「続けること、拡張すること」「改善すること・やめること」「新しく試すこと」で整理し、

話し合いから具体的なアクションへ

最後に④Action（自分たちが実行する具体的な行動）を導くという流れをたどりまし。枠組みに沿って活発な意見交換が展開され、模造紙と付箋を使って前回の話し合いの結果に今回の意見が重ねられていきました。

全体共有では、各グループから「ふれあい喫茶に子育てサークル参加者にも立ち寄ってもらおう」「見守りをしているボランティア活動の認知度をあげたい」「地域の防災訓練をマンション住民とも協働できれば」などの発表がありました。

さらに、この場を契機として、地域の情報発信を中心に引き続き考えていくこととなり、11月に再度集まった際には、ホームページ・SNS活用や企業との連携などの可能性を出し合い、具体化に向けた検討がすすめられました。

同会は区社協が主催し、さまざまな住民・関係者への呼びかけ役・進行役を担いますが、そ



▲全体共有では、住民からグループで出た意見を発表

中央区の取組みから学ぶ話し合いの場づくりのポイント

- 地域役員・活動者だけでなく、新たな参加者に呼びかけて開催
- 意見を出し合い、今後の取組みを導ける枠組み（フレーム）を取り入れる
- 区社協はきっかけづくり・提案役となるが、具体的な取組みは地域主体で実行

区内の他地域でもこのような話し合いをきっかけに、これまで地域活動に関わりがなかった住民による、集合住宅での新たなカフェの立上げにつながった事例も生まれており、区社協で

は、地域の特性をふまえ、それぞれに合った形での話し合いの場づくりや活動への支援をすすめています。

■ グループワークで出た意見(一部)

1 Keep
(よかったこと、続けたいこと)
・見守り活動 ・百歳体操
・ふれあい喫茶 ・子育てサークル

2 Problem
(問題点、改善したいこと)
・坂道の上(北側)の人は会館に来るのが大変
・マンションと地域の交流がない
・活動参加者・担い手ともに高齢

3 -1 Try (Keep: 続けること、拡張すること)
・会館での活動 ・世代間交流の祭り、盆踊り ・防災訓練

3 -2 Try (Problem: 改善すること、やめること)
・マンションなど町会未加入者にも地域情報を伝える必要がある
・世代間交流の喫茶ができておらず、子育て参加の親子が来ない

3 -3 Try (New: 新しく試すこと)
・集まりやすい時間帯で集いを開催
・周知の拡大

4 Action
(自分たちが実行すること、行動計画)
・地域のホームページをつくる
・QRコードやオンラインで情報発信
・情報を簡単に得られるツールとして、LINEなどの活用
・町会掲示板を増やす
・赤ちゃんのサポートはあるが、共働きのこどもの支援が少ないため、こどもの居場所を増やす

こども・家庭・地域の笑顔のために 保育施設ができること



区内の保育施設が
つながれるように

11月6日午後2時～3時30分に、西区社会福祉施設連絡会と西区社協の共催により、西区民センターホールで「西区保育施設連絡会」が開催されました。この取組みは、区内の保育施設同士の顔が見える関係づくりの場として、また、他施設の取組みや課題について情報交換し、ともに考える機会として今回初めて企画されました。



▲西区保育施設連絡会を初めて開催

区社会福祉施設 連絡会とは？

大阪市内の各区では、区内の社会福祉施設が互いに連携して情報交換や共同活動をおこなうため、区社会福祉施設連絡会が組織されています。区社協は、事務局として活動をサポートしています



つながることから
地域に目を向ける

西区社会福祉施設連絡会は保育施設が大半を占め、以前から、社会福祉法人運営の保育施設同士はつながりがあったものの、企業型などの保育施設とはあまり情報交換する機会がなかったことから、区内82施設に案内し、27施設26人の園長・保育士が連絡会に参加しました。



悩みを共有して
みんなで考える

て、形式上のつながりではなく、コミュニケーションを通してつながりが重要です。それは、こども・子育て家庭を中心とした保育実践をつくることにもつながります」と語り、続けて、「西区はどのようなまちか？どのようなまちにしたいか？」を参加者に問いかけながら、こども・子育て家庭にとつての地域の姿や今後のめざす方向性について話しました。また、保育と福祉の考え方もふれ、「保育も福祉も『人づくり』『まちづくり』であり、どう実践・実行していくのかが大切です」と話しました。

グループワークでは、2つのテーマ①としては「保育で嬉しかったこと」を共有し、「ハロウィンイベントで、こどもたちみんなで喜びながら自作した衣装で仮装する様子を見ることができて良かった」「預かっていたこどもが大人になり、保育園の同窓会で顔を出してくれて、



▲活発な情報交換ができました



▲「あっという間に時間が経ったと思うくらい楽しい情報交換だった」と松枝さん



新たな一歩に向けて
のキックオフ

最後は、まとめとして西区社会福祉施設連絡会会長で千代崎ポプラ保育園園長の松枝順司さんから、「以前から社会福祉法人以外の保育施設とも情報交換できる機会が必要だと思っており、楽しい情報交換の時間だった。どこの保育施設も『こどものために一生懸命』ということは同じ。考え方ややり方は施設それぞれかもしれないが、見ている方向性は同じと改めて共有することができた。共感し合える仲間と集まり、参考になることを聞いて気づきが生まれる連絡会はやはり必要だと感じた。今後も継続して実施していきたい」と語りました。

参加者の感想

- なかなか横のつながりがなく、いろいろな保育施設とつながりを持つ機会がほしいと思っていた
- 情報交換で参考になることも聞くことができて、参加してよかった
- 何かの行事を一緒にするなど、交流ができるとおもしろい

特集

学生対象

「福祉のおしごと魅力発見ミーティング」開催



福祉の魅力発信

市社協と大阪府社会事業施設協議会、大阪市福祉人材養成連絡協議会は共催により「福祉のおしごと魅力発見ミーティング」を開催しました。このイベントは、学生へ福祉の仕事の魅力を発信し、将来の職業として志す人を増やしていくことを目的とした

「おしごと魅力発見ミーティング」が11月18日、グランフロント大阪ナレッジキャピタルのカンファレンスルームで開催しました。このイベントは、学生へ福祉の仕事の魅力を発信し、将来の職業として志す人を増やしていくことを目的とした



普段の仕事内容ややりがいを紹介

ものです。

学校のポスター掲示や先生からの紹介等で、高校生や専門学校生、短期大学生、大学生（大阪府・京都府・兵庫県・奈良県下）など計17人が参加しました。

主催団体からのあいさつの後、市社協職員との進行のもと、さまざまな分野の社会福祉施設で働く若手職員12人が、施設の役割や仕事内容、やりがい等を紹介しました。「保育所とし

て、高齢施設や町内会の行事（ポツチャ大会）に参加して、こどもたちと高齢者が交流できる機会をつくり、双方が楽しめる機会をつくらせている」「野菜が嫌いで食べなかった子が、自分から食べるようになってきた時に、こどもの成長を見ることができてやりがいを感じた」「こどもたちが失敗して落ち込んでしまっても、そこから乗り越えて、成長し、大きくなっていく過程を見ることが出来るのが魅力」



▲就職したきっかけ、失敗した時にどうしているなども聞くことができました



▲「福祉を魅力に感じていただき、将来一緒に働ければ」とまとめました



▲仕事の魅力、利用者との関わりをスライドで説明

大阪市社会事業施設協議会とは？

6つの社会事業施設団体（児童・保育・老人・生活保護・地域・障害の各団体）で組織しており、社会事業団体相互の連絡調整と協同活動を推進し、施設の事業内容の充実発展を目的に活動しています。主に、施設団体相互の連絡調整や施設運営に関する調査、研究及び企画に関すること、施設と地域社会の連携に関すること、関係官公庁、団体との連絡協調の促進、従事者の研修及び福祉の増進に関する事業をおこなっています

「野菜が嫌いで食べなかった子が、自分から食べるようになってきた時に、こどもの成長を見ることができてやりがいを感じた」「こどもたちが失敗して落ち込んでしまっても、そこから乗り越えて、成長し、大きくなっていく過程を見ることが出来るのが魅力」

また、「高齢施設で働いており、認知症の方への対応で大変な時もあるが、介助で感謝してもらえた時はやはりうれしい。この仕事をしているから知れる喜びがある」「障がい関係の施設で働いており、日々の創作活動を通じて、利用者さんが地域や社会とつながれるような機会ができたときに意義を感じる」「生活保護施設で、利用者さんの目標達成に向けて、一緒に働きかけたいところ、やりがいを感じる。また、利用者さんから『あなたなら任せられる』『相談してよかった』と言ってもらえるとやりがいにもなるし、元氣も出る」などの発表がありました。

登壇者の感想

- トークセッションがあり、他の施設の方の大切にしていることや、悩んだ時などの話を聞けてよかった
- 初めてだったので、緊張したが、他の分野の知らなかった施設について、聞くこともできてよかった
- 学生の方と対話できる時間があるといいのではないかと感じました

後半は、WEBフォームを使って学生からの質問や感想を募り、「就職活動の決め手」「利用者とのコミュニケーションの工夫」「失敗した時や壁にあたった時の乗り越え方」などで、全体でパネルトークを進めました。

参加者アンケートでは「とてもよかった」「よかった」との回答が約9割となり、施設見学や関心のある分野についてより深く聞きたいといった声も多く寄せられました。

今後、大阪市社会事業施設協議会ホームページや、市社協が運営するサイト「ふくしる大阪」などで、今回のイベントをまとめた動画や関連記事などを発信予定ですので、ぜひご覧ください。



▲フリップなどを用いたパネルトーク

参加者の声

- それぞれの分野で働く職員の方から詳しくお話を聞けて、とても興味が湧きました（高校生）
- 実際に働いている職員の方から体験談を聞くことができ、やっぱり福祉の道をめざしたいと思えました。進路選択の後押しになりました（高校生）
- 福祉の仕事には、さまざまな業種があることを学ぶ機会となりました。皆様がいそいそとお話されているのが印象的でした（短大生）
- 施設紹介や仕事、やりがい、就職したきっかけについて知ることができてよかったです（大学生）
- 特別養護老人ホームで実習をしましたが、他分野の仕事内容等について知りたいと思い、参加して知ることができてよかったです（大学生）

風をよむ

身寄りのない高齢者等への対策

大阪公立大学大学院生活科学研究科 講師 鶴浦直子

厚生労働省は2024年度に「身寄りのない高齢者等が抱える生活上の課題に対応するためのモデル事業」を実施し、9つの市町で取組みが始まった。本事業は、①身寄りのない高齢者等の相談を受ける包括的な相談・調整窓口の整備と、②身元保証を代替する支援、日常生活支援、死後の事務支援をパッケージで提供するを目的とする。

国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の世帯数の将来推計（全国推計）—令和6（2024）年推計」（2024年4月12日）によると、単身世帯は2020年の38.0%から2050年には44.3%に増加するとされている。また、高齢単身世帯に占める未婚者の割合も大きく上昇するとされており、近親者のいない高齢単身世帯の急増が予測されている。

2020年度に身寄りのない人を地域で支える地域づくりに関する調査を行ったNPO法人つながる鹿島は「『身寄り』がないことは

もはや『例外』ではなく、『第2のスタンダード』^注と述べている。現在の社会制度では家族がいることが標準とされているが、身寄りがないことを今後の社会における新たなスタンダードとして位置づける必要があると示唆している。さらに、この問題は、高齢者だけでなく、他の年代でも共通して起こりうる。国立社会保障・人口問題研究所が実施した「生活と支え合いに関する調査」（2022年7月）では、高齢者ではない単身の男性の29.7%、女性では15.0%が「日頃のちよつとしたことの助け」で頼れる人が「いない」と回答している。

身寄りがないことで生じる問題に対して、当事者や支援者などが協力して地域で取り組むことは重要であるが、行政など公的支援の強化も不可欠であり、社会全体でこの問題と向き合うことが求められる。

注 特定非営利活動法人つながる鹿島「身寄りの有無にかかわらず安心して暮らせる地域づくりの手引き」（2021年3月）・p.11



善意銀行

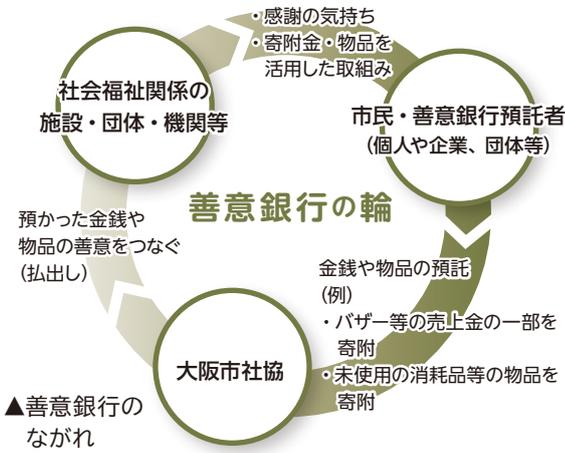
みなさんの善意を

社会福祉の発展に



市社協では、「善意銀行」を通じて、事業運営にご協力いただける市民の皆さまや法人・団体から善意の預託（金品・物品）を受け、地域コミュニティづくりや地域福祉活動の推進を図るため、社会福祉関係の施設・団体・機関等の活動に役立てられています。

このたび、スマイルチルドレンから、96万円の寄附を賜りました。寄附金は、大阪市児童福



社施設連盟等を通じて市内の児童養護施設において、有効に活用させていただきます。

ユニゾホテル株式会社から、歯ブラシやヘアブラシなどの預託をいただきました。寄附された物品は区社協を通じて、有効に活用させていただきます。



▶預託をいただいたスマイルチルドレンの5人

参加者募集! **参加費無料!**

令和6年度 地域子ども支援ネットワーク事業シンポジウム

体験の格差が与える子どもたちへの影響について考える!

体験や経験を通じて、子どもたちが“社会を生き抜く力”“豊かな人間性”を育むためにわたしたちに何ができるのか地域全体で一緒に考えてみませんか?



講師・パネルディスカッションアドバイザー
大阪体育大学
スポーツ科学部 講師
徳田 真彦 氏

開催日時 **令和7年2月8日(土)**
午後1時～4時

内容

第1部 基調講演

第2部 パネルディスカッション
コーディネーター：石田 易司 氏
(桃山学院大学名誉教授)

開催場所 **たかつガーデン 8階**
大阪市天王寺区東高津町7-11

パネリスト：西峯 圭子 氏 (子ども班会「コペルくん」)
藤本 真帆 氏 (公益財団法人 住吉隣保事業推進協会)
目崎 敦也 氏 (NPO法人Unity)

対象 **子どもの居場所活動に関心のある人**

定員 **200人** ※事前申込制・先着順

申込み方法 **申込みフォーム等からお申込みください▶**



申込期日 **令和7年2月2日(日)**

問合せ先 **大阪市ボランティア・市民活動センター**
TEL 06-6765-4041
MAIL kodomo@osaka-sishakyo.jp

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

火災保険 自動車保険 旅行保険

www.ms-ins.com